

平成 28 年度 北海道小学校長会 第 5 回理事研修会

新会長 就任挨拶



只今、会長に選考いただきました角野でございます。
会長職の重責をひしひしと感じ、身の引き締まる思いであります。

この北海道小学校長会は、来年度、昭和 32 年の発足から 60 年目を迎える伝統ある組織であります。これまで、北海道の教育が幾多の困難に直面する中、「正論を以って正道を歩む」という理念の下、全道の会員一人一人が北海道教育の向上のために、真摯に取り組を進めてきました。その伝統を汚さないように、皆様と力を合わせながら努力を積み重ねてまいりたいと考えております。

さて、各学校におきましては、2020 年度から完全実施される次期学習指導要領の円滑な実施に向けて、社会に開かれた教育課程の推進、指導体制の整備、校内研修の充実等に取り組んでいるところかと思えます。子どもたちには、変化の激しい時代を生きていくために、基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、それらを活用した思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ豊かな人間性などが求められています。

こうしたことを踏まえ、北海道小学校長会では、近年、本道教育の質の向上を目指す上で、時代の要請に応える「授業改善」が重要課題であると主張してきました。各学校においては、校長のリーダーシップの下、教師一人一人が授業研究を通して研鑽を積み重ね、授業力の向上に努めているところかと思えます。

その一方では、今日、学校が抱える課題は、複雑化・多様化しており、いじめ・不登校などの生徒指導上の問題への対応、貧困・児童虐待などの課題を抱えた家庭への対応、特別な教育的支援を必要とする児童への対応、保護者へのきめ細かな対応など、様々な課題が山積しております。

さらには、子どもと向き合う時間の確保や時間外勤務等の縮減、教職員定数の改善、服務規律の徹底なども喫緊の課題となっております。

私たち校長は、こうした教育改革の推進や教育課題に立ち向かっていかなければなりません。時代の変革期を迎えている今だからこそ、これまで以上に北海道小学校長会の存在意義が問われているとも言えます。

このような中、来年度、第 60 回北海道小学校長会教育研究宗谷・稚内大会が開催されます。全道校長の半数以上が集う研究の場において、教育の現状を語り合い、北海道教育

の質の向上に向けて、我々自身が研鑽を積んでいかなければなりません。今年度の小樽大会におきましては、分科会の運営や討議の内容につきまして、全連小の大橋会長から高い評価をいただいております。私たちは、誇りと自信をもちながら、研究を深めていきたいものです。特に、分科会については、これまで、参観型から参加型、近年は参画型というように、工夫を重ねてまいりました。今後、更なる改善を目指すことが、平成30年度に函館で開催される全連小北海道大会の充実に結びつくものと考えております。

本日ご出席の理事の皆様方は、それぞれ各地区のリーダーとしてその重責を担われてきたことと思います。地域による教育事情は様々かと思いますが、各地区校長会が道小という組織を通して、今後も、大同団結していくことが大切であると考えております。それが全国連合小学校長会の活動の充実にもつながり、教育改革の大きなうねりになっていくと信じております。

今年度の組織の在り方検討委員会では、各地区校長会の皆様方から、道小の活動に対して貴重なご意見をいただくことができました。会員一人一人の方々にとりましては、会費値上げ問題が、道小という組織を考える一つの契機になったのではないのでしょうか。これからも、この道小という組織を活性化させるとともに、北海道中学校長会、北海道PTA連合会、北海道教育委員会、民間教育団体等の教育関係諸団体などとも連携を図りながら、「チーム北海道」として北海道教育の充実に努めてまいりたいと考えております。

新年度に入りましてからも、引き続き、各地区校長会の皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。